

令和 6 年度

自己評価
結果報告書

学校法人 松栄学園

はらきた幼稚園

経営理念・教育理念・教育方針・教育目標

《学校法人 松栄学園》

【経営理念】

*園児と保護者・教職員に喜びを与え、笑顔あふれる地域社会をめざす。

【教育理念】

*遊びを中心とした楽しい集団生活の中で、豊かな体験を通して、21世紀を生き抜く力を育て、豊かな心・健やかな体・優れた知性を備えた、バランスのとれた人間の育成に努める。

【教育方針】

*ゆたかな心・すこやかな体・すぐれた知性の、バランスのとれた子どもを育てる。

【教育目標】

*各学年の教育目標

《年少組・教育目標》

- *喜んで登園して、友達と遊べるようになる。
- *集団生活には、「きまり」があることを知る。
- *身の回りのことが、できるようになる。
- *身近な人と関わって、愛情や信頼感をもつ。
- *道具の正しい使い方を覚える。

《年中組・教育目標》

- *周りの環境や友達と関わることを通して、好奇心や探求心を抱く。
- *基本的生活習慣が身について、「きまり」を守れるようになる。
- *身近な自然に触れて、動植物に興味や関心をもつ。
- *相手の話を注意して聞くしたり、経験したことと相手にわかるように話す。
- *美しいものを見て、美しいと感じる。（新入園児は、「年少組の教育目標」も含める。）

《年長組・教育目標》

- *年長の自覚をもつ。
- *物事に進んで取り組む意欲と自信をもつ。
- *文字や数量に対する感覚や、その記号的意味に気づく。
- *人の話を聞いて、理解して、（短くとも）まとまりのある話をする。
- *自分の考えや感じを言葉や体を使って表現する。
- *友達と役割を決めて、協力して遊ぶ。

1)保育の計画性	園の教育理念 各学年の教育目標	・毎日、朝礼の時に教育理念と各学年の教育目標を復唱し、達成する姿をイメージしながら毎日の保育に取り組んでいる。
	指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に一年間の製作物計画案を作成し、季節に合った製作を行なうことで四季の移り変わりを感じられるよう導いている。 ・その時の子どもの様子や出来ることを見ながら計画案を見直している。 ・月に一度、保育カリキュラムを作成し、5領域に沿った目標を立てて、保育の中で取り組んでいる。 ・学年主任を中心に学年ごとに話し合いを重ねて、園児が主体的に参加できる活動を考える。 ・担任は保育日誌で週案を作成し、毎日反省記録を残している。日誌を見返して、次の週案作成や保育内容の変更などに生かしている。 ・保育日誌は、週に1度、副園長が見て、そのクラスの様子や担任が感じたこと、反省点を共有している。 ・各クラス目標を壁に提示し、常に意識できるようにする。
	反省	・行事や取り組む活動が多く、見直す必要性を感じる。
2)保育の在り方 子どもへの対応	安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの置き去り事故を踏まえて、再度、安全管理マニュアルを職員で見直し、修正を加えて、そのやり方を徹底する。 ・令和5年3月にバスの運転手と職員代表3名が保健福祉復興財団主催の「バス送迎における安全管理徹底のための研修」を受けた。
	健康・衛生面	<ul style="list-style-type: none"> ・保育中、体調が悪くなった園児がいたら、検温や冷えピタを貼るなどの処置をして保護者に連絡する。連絡がつかない場合は事務室で休ませる。 ・ケガが出た際は、すみやかに保護者に連絡をして医療機関に連れていく旨を伝え、園長が連れていく。結果は帰つて来てから、もしくは、お迎えの際に保護者に伝える。保護者に医療機関に来ていただく場合もある。 ・終礼で、ケガが出たことを伝えて、職員間で情報を共有する。 ・毎朝と昼に、マラソンを行なって、体力作りを図る。 ・熱中症対策で、ミスト装置の設置。

	コロナ禍における対応の変化	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から始まり多くの事をコロナ対応に変更し、日々緊張感のある保育だったがコロナ対応にしてきたことが、今後の園の在り方につなげていけるものもあり、勉強になった。 5類になったことによりコロナ前の活動内容に戻したり、変更して良かった所は引き続き取り入れた。 教室内の消毒・次亜塩素酸水噴霧器の使用。 行事に関して、保護者の入場の人数制限緩和。 入園式・卒園式・運動会・生活発表会のオンラインライブ配信の実施。
	反省	<ul style="list-style-type: none"> 園内の見回りや危険個所がないかの点検の回数を増やして、未然にケガ・事故防止に努める。
3)教師としての資質と能力		<ul style="list-style-type: none"> 園児一人ひとりとじっくり関わり、信頼感を築く。 遊びを中心とした集団生活の中で、豊かな体験を通して、ゆたかな心・すこやかな体・すぐれた知性のバランスのとれた子どもを育てる。 言葉遣いに注意して、丁寧な話し方を心掛ける。 身だしなみに十分注意して、第一印象を良いものにするよう心掛けている。 手遊び・紙芝居などを効果的に使い、子どもの興味を引きつける。 園児一人ひとりの個性や性格を把握して、日々のちょっとした様子の変化にすぐに気づけるようにする。何かその子に変化があれば、他の職員にも相談して解決策を考える。 挨拶・笑顔を習慣づける。
4)保護者への対応	保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> おたより帳の後ろのポケットで、保護者との手紙のやり取りを行なっており、特に延長保育の申し込みやバスの変更の手紙は見落とさないよう気をつけて必ず前日までの手紙には「確認しました」の返事を入れるようにしている。 その日の様子をお迎えの時に伝えたり、バス利用の園児の保護者には、電話をして伝えるようにして、保護者とのコミュニケーションを図っている。 月に1回発行しているクラスだよりがクラスの様子が十分に分かる内容のものとする為、普段から子ども達の姿や様子を観察する。 病気で欠席した所には、必ず担任が電話をし、様子を聞くようしている。 月に一度おたより帳を預かり、担任が子どもの様子をお手紙形式で記入したものを貼って、園での様子を

		伝える。子どもも読めるように、平仮名で書いてあるので喜ばれている。
	苦情	・保護者から苦情をいただいた時は、すぐに園長に報告し、対応・改善できる所は改善して、保護者に伝える。職員間でも内容を共有し改善に努める。
	反省	・保護者からのご意見に対して誠意が足りないと感じられないように、まずは話を聞いて真摯に受け入る。 ・保護者に対して説明不足とならないような配布物の作成に努める。
5) 研修と研究		・保育の質を上げる為に園内で他の職員が見に来る研究保育を行なっている。そのクラスにあった導入を担任が考えて、作り、その指導を見て反省会を行ない意見を出し合っている。後輩職員は学ぶことが多く勉強になっている。 ・オンラインや対面で、年間を通して、定期的に外部の講師の研修を受けている。 ディスカッションの時間もあり、意見交換を行なっている。 ・保護者に対しても、外部講師によるオンライン研修を実施している。 ・夏季の業者主催の研修、または福岡市私立幼稚園連盟研究委員会主催の研修に参加し日々の保育に生かしている。 ・研修終了後には反省記録を作成し研修内容の振り返りを行なう。

今後取り組むべき課題・反省

1) 保育の計画性について	・学年会議の回数を増やし、職員間の連携を密にして、クラスごとに差がない保育を行なう。今後も、子ども主体となる指導計画案を作成して実施していく。 ・クラスが増えることによる環境整備とロッカーの使い方を工夫する。
2) 保育のあり方 子どもへの対応について	・子ども一人ひとりの健康状態を把握しつつも様子が違う、給食が進まない等少しの体調の変化にも気づけるようにする。 ・保護者の連絡先を必ず控えておき、変更が生じた場合には新しい連絡先を聞いておく。 ・熱性けいれんや食物アレルギーの園児を把握し、起こった場合の対応の仕方を再度 職員間で確認する。
3) 教師としての資質と能力について	・幼稚園教諭としての意識を高くもって、立ち振る舞いに留意する。 ・園の教育理念を理解したうえで、日々の保育に臨む。 ・不適切保育になっていないかの振り返りと職員間での情報共有。

4)保護者への対応	<ul style="list-style-type: none">・保護者の意見に真摯に向き合って、職員全員で対応する。・SMSを上手に利用して、子どもの園での様子を発信していく。
5)研修と研究	<ul style="list-style-type: none">・福岡市私立幼稚園連盟、振興協会が主催する研修に参加して、理解を深めていく。・個人で参加できる新たな研修に、積極的に参加して、キャリアアップをめざす。

財務管理について

監査法人の公認会計士により、適正に、運営されていると認められている。